

医学教育分野別評価  
防衛医科大学校医学部医学科  
年次報告書  
2018年度（平成30年度）

評価受審年度2017年（平成29年）



医学教育分野別評価 防衛医科大学校医学部医学科 年次報告  
平成30年度

評価受審年度 2017（平成29）年

今後改善が見込まれる項目

1. 使命と学修成果	1. 3 学修成果
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
卒業時コンピテンシーを学生、教官、事務官、技官に対し更に周知すべき。	
現在の状況	
卒業時コンピテンシーを学内に広く周知するため教授要目に掲載をしているが、更に周知する必要がある。	
今後の計画	
卒業時コンピテンシーを更に周知するため、入学時オリエンテーション時に紹介する等学生に周知する機会を設けること及び教授要目配付基準の見直しを行い配付部署・部数の拡大について検討していく。	
改善状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

1. 使命と学修成果	1. 3 学修成果
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
卒業時コンピテンシーと初任実務研修行動目標との関連を明確にすることが望まれる。	
現在の状況	
初任実務研修行動目標と卒業時コンピテンシーの対応関係を明確に示す資料を作成する必要がある。	
今後の計画	
本校卒業時の学修成果を卒業時コンピテンシーとして定め、厚生労働省臨床研修の到達目標を参考に初任実務研修行動目標を作成し、卒業時コンピテンシーを発展拡張したものとなっている。しかし、その対応関係が複雑であることから、両者の内容を精査し、簡明な対応関係が示せる資料の作成を検討していく。	
現在の状況を示す根拠資料	

改善した項目

1. 使命と学修成果	1. 4 使命と成果策定への参画
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	

医学及び社会の変化に伴い、使命と学修成果の見直しや改訂を行う際には、教育に関わる主要な構成者、特に学生が参画できるようにすべきである。
<b>改善状況</b>
防衛医科大学校のカリキュラムを改訂する際において、学生の意見も反映できるシステムを構築するため、カリキュラム委員会に学生を追加するため規則の改正を行った。
<b>今後の計画</b>
学修成果を改訂する際には、学生だけでなく、より広い構成者の参画を可能にする制度を整える必要がある。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
医学科のカリキュラム委員会に関する達

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2. 1 プログラムの構成</b>
基本的水準 判定：適合	
<b>改善のための助言</b>	
学生の学修意欲をより刺激するカリキュラムを編成すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
カリキュラム委員会ワーキンググループ（作業部会）で、本校学生が全寮制という環境下で、単なる学科における学習だけでなく、日々の生活を通じて学生が自分の学習に責任を持つことを促すカリキュラムを編成となるよう、現行カリキュラムの見直しを行っている。	
<b>今後の計画</b>	
カリキュラム委員会ワーキンググループ（作業部会）での検討結果を、カリキュラム委員会、教育分科会及び教授会で審議し、カリキュラムに反映させる。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2. 1 プログラムの構成</b>
基本的水準 判定：適合	
<b>改善のための示唆</b>	
アクティブラーニングの機会を更に増やすことが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
教官個々がカリキュラムに対する理解を深めるための研修機会等を増やしていく必要がある。	
<b>今後の計画</b>	
教官に対するFD（Faculty Development）の一環として医学教育ワークショップなど研修機会を設け、カリキュラムプランニングに関する知識付与や教育技法の向上を継続していく。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

#### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2. 4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
行動科学の到着目標、学修方略を説明にし、責任者がオーガナイズして体系的なプログラムを構成すべきである。	
現在の状況	
カリキュラム委員会ワーキンググループ（作業部会）で、本領域の重要性を認識し、心理学、哲学、社会学、法学及び倫理学からなる「行動科学」の領域を設置する編成となるよう、現行カリキュラムの見直しを行っている。	
今後の計画	
カリキュラム委員会ワーキンググループ（作業部会）での検討結果を、カリキュラム委員会、教育分科会及び教授会で審議し、カリキュラムに反映させる。また、本領域の責任者はカリキュラム委員会で適任者の選定を進めて行く。	
改善状況を示す根拠資料	

#### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2. 4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
行動カリキュラムの整備を行い、防衛医官のニーズに沿って調整することが望まれ	
現在の状況	
カリキュラム委員会ワーキンググループ（作業部会）で、本領域の重要性を認識し、心理学、哲学、社会学、法学及び倫理学からなる「行動科学」の領域を設置する編成となるよう、現行カリキュラムの見直しを行っている。	
今後の計画	
カリキュラム委員会ワーキンググループ（作業部会）での検討結果を、カリキュラム委員会、教育分科会及び教授会で審議し、カリキュラムに反映させる。また、本校の教育の特殊性を鑑み、「自衛隊における勤務並びに医療環境」及び「日本国内もしくは国際的な場面」を対象とした教授内容となるよう検討していく。	
現在の状況を示す根拠資料	

#### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2. 5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床実習において経験すべき技能を明示し、それぞれの学生が経験した症例、修得した技能を明示し、それぞれの学生が経験した症例、修得した技能を把握するシステムを構築すべきである。</li> <li>健康増進と予防医学の体験を推進させるべき。診療参加型臨床実習の更なる充実を図るべきである。</li> </ul>	

<b>現在の状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が経験した症例、修得した技能を明示し、それぞれの学生が経験した症例、修得した技能を把握するシステムを構築する必要がある。</li> <li>・カリキュラム委員会ワーキンググループ（作業部会）で、卒業後自衛隊医官として勤務することになっている自衛隊医療では特に重要な点の一つである健康増進と予防医学について充実を図るため、病院体験実習の時間を増やす編成となるよう、現行カリキュラムの見直しを行っている。</li> </ul>	
<b>今後の計画</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コア・カリキュラムで示されている学習すべき病名について、各学生がいつ、どの病気を持つ患者に接したかを記録し、同時に評価を行えるシステムの構築を検討していく。</li> <li>・健康増進と予防医学の体験について、カリキュラム委員会ワーキンググループ（作業部会）での検討結果を、カリキュラム委員会、教育分科会及び教授会で審議し、カリキュラムに反映させる。</li> </ul>	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

今後改善が見込まれる項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2. 5 臨床医学と技能</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
<p>現在及び将来において社会や医療制度上必要となると予想されることに関し、カリキュラムが調整・修正されることが望まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2学年・第3学年で患者と段階的に接触する機会を設けることが望まれる。</li> </ul>	
<b>現在の状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な情報を的確に入手し、カリキュラムを調整及び修正を柔軟に行えるようにする必要がある。</li> <li>・カリキュラム委員会ワーキンググループ（作業部会）で、現在は1学年の病院体験実習後は、ほとんど患者に触れる機会がないことから、病院体験実習の時間を増やし段階的に患者と接触する機会を設ける編成となるよう、現行カリキュラムの見直しを行っている。</li> </ul>	
<b>今後の計画</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムの変更や調整はカリキュラム委員会が担当していくが、細部内容は担当教官が情報を入手しさせていく。また、現在及び将来において社会や医療制度上必要となることを、可能な限りの確に捉える専門の組織を設置するため概算要求を行うことを検討している。</li> <li>・段階的に患者と接触する機会について、カリキュラム委員会ワーキンググループ（作業部会）での検討結果を、カリキュラム委員会、教育分科会及び教授会で審議し、カリキュラムに反映させる。</li> </ul>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

今後改善が見込まれる項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2. 6 プログラムの構造、構成と教育時間</b>
-------------------	------------------------------

<b>基本的水準 判定：適合</b>
<b>改善のための助言</b>
体系的な行動科学のカリキュラムを構築し、その他の科目との関連を明確にして、学生と教官に明示すべき。
<b>現在の状況</b>
カリキュラム委員会ワーキンググループ（作業部会）で、本領域の重要性を認識し、心理学、哲学、社会学、法学及び倫理学からなる「行動科学」の領域を設置する編成となるよう、現行カリキュラムの見直しを行っている。
<b>今後の計画</b>
カリキュラム委員会ワーキンググループ（作業部会）での検討結果を、カリキュラム委員会、教育分科会及び教授会で審議し、カリキュラムに反映させる。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>

今後改善が見込まれる項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2. 6 プログラムの構造、構成と教育時間</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
基礎医学領域においては、水平的統合が開始されているが、統合の範囲を広げ系統的な統合教育を推進することが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
カリキュラム委員会ワーキンググループ（作業部会）で、有機的に水平統合が機能する編成となるよう、現行カリキュラムの見直しを行っている。	
<b>今後の計画</b>	
カリキュラム委員会ワーキンググループ（作業部会）での検討結果を、カリキュラム委員会、教育分科会及び教授会で審議し、カリキュラムに反映させる。また、全般を見渡せる人材と組織が必要であることから教育に特化した専門の組織を設置するため概算要求を行うことを検討している。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

今後改善が見込まれる項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2. 7 プログラム管理</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ教育分科会、カリキュラム委員会などの位置づけと役割を明確にすべき。</li> <li>カリキュラムの立案と責任を持つ委員会の構成員に、学生の代表を正式のメンバーとして加えるべき。</li> </ul>	
<b>現在の状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラムの評価機能が弱かったことから、教育分科会の機能を強化し、カリキュラム委員会に対して問題点や改善の方向性を提言できる体制を継続している。</li> <li>カリキュラム委員会の構成員に、学生委員を追加するための規則改正を行った。</li> </ul>	

<b>今後の計画</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム、教育に関する種々の問題点について、情報収集に当たる専門の組織の設置について概算要求を行うことを検討している。</li> <li>・カリキュラム委員会において、学生委員として3名委員会に参加させており、学生の意見を取り上げ審議を行い、カリキュラムに反映させる等委員会の充実を図っていく。</li> </ul>	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

今後改善が見込まれる項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2. 7 プログラム管理</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
カリキュラムの実施と立案に責任を持つ委員会に、教官と学生以外の教育の関係者を含むことが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
「医学科のカリキュラム委員会に関する達」でカリキュラム委員会の構成員として、教官及び学生以外に、関連の事務官及び自衛官が構成員となっている。	
<b>今後の計画</b>	
更なる構成員の多様性が必要であれば、カリキュラム委員会及び教育分会で検討を行う。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

今後改善が見込まれる項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2. 8 臨床実践と医療制度の連携</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
卒前教育プログラムと卒後の研修プログラムを管理する部署が協議し、卒前教育の到達目標（卒業時コンピテンシー）と研修における到達目標（初任実務研修行動目標）との整合性を整えるべき。	
<b>現在の状況</b>	
本校の教育スタッフと卒後の人事管理を行うことになる各自衛隊との情報共有や連携は十分保たれているが、卒前・卒後の連携強化において重要となる事項や、本校卒業医官の特性を考慮する必要がある。	
<b>今後の計画</b>	
卒前・卒後の運営連携を如何に強化していくか、また、卒後の研修医官について各自衛隊と如何に連携を強化していくかについて、検討する枠組みを整備していく必要がある。連携強化で得られる利点を、学生教育に如何に反映させるかについての方策を検討する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2. 8 臨床実践と医療制度の連携
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
カリキュラムの実施と立案に責任のある委員会が卒業生の勤務する自衛隊病院等からの意見を取り入れて、教育プログラムを適切に改良することが望まれる。	
現在の状況	
卒後の勤務環境との関連から教育プログラムを改良する必要があるかどうかについては、各自衛隊との連携を密にし、適宜情報収集にあたる必要がある。	
今後の計画	
教育プログラムを改正する必要性があれば、カリキュラム委員に各自衛隊の衛生担当者を加え、「卒業生が将来働く環境からの情報を得て、教育プログラムを適切に改良すること」に資するよう検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	

#### 今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3. 1 評価方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内で行われている評価を教育実施者以外の専門家によって精密に吟味すべきである。</li> <li>・「訓育」の評価を学生にフィードバックし、学生の成長に反映させるべきである。</li> </ul>	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学科の教員間で学生評価の信頼性と妥当性について確実に理解を共有する。また医学教育学会や他大学などに、外部評価組織の作成を依頼し、専門の外部評価機構により吟味されることを目指す必要がある。</li> <li>・「訓育」を学生の成長に反映出来るようフィードバックできるシステムについて検討する必要がある。</li> </ul>	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学教育ワークショップなどの外部タスクフォースをメンバーとする場で、評価法を精密に吟味の実施について検討していく。また、評価法を精緻に吟味するためのデータ収集及び解析を行うために特化した専門の組織を設置すべく概算要求を行うことを検討している。</li> </ul>	
改善状況を示す根拠資料	

#### 今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3. 1 評価方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価方法の信頼性と妥当性を検証し明示することが望まれる。</li> <li>・外部評価者の利用を更に促進することが望まれる。</li> </ul>	
現在の状況	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師国家試験の成績は学内試験、総合試験の評価方法の妥当性を示す良い指標であることから、平成30年度医師国家試験から受験者全員の得点をモニタした。</li> <li>・4学年時に実施しているCBT及びOSCEについては、外部の専門家を活用して行っている。また、一部の診療科で行われている部外病院実習では外部評価をされているが、それ以外の評価についても外部の評価者を更に活用する必要がある。</li> </ul>
<b>今後の計画</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価方法の信頼性・妥当性については、第5学年進級試験、第6学年総合試験の解答の識別指数を明示することが総合試験調整解析グループ委員会行えるか検討していく。</li> <li>・外部評価を活用するようカリキュラムを構築し、外部評価者の更に活用するよう検討していく。</li> </ul>
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>

### 今後改善が見込まれる項目

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3. 2 評価と学修との関連</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が学修成果を達成しているかを評価するシステムを構築すべき。</li> <li>・学生の成長を促す形成的評価の実効的な導入をすべき。</li> <li>・ポートフォリオやmini-CEXなどを活用して、診療参加型臨床実習の評価を確実に行うべき。</li> </ul>	
<b>現在の状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標とする学修成果を学生が達成していることを概ね確認できていると考えられるが、卒業時コンピテンシー各項目のアウトカムを確認するための評価法を整備する必要がある。</li> <li>・カリキュラム単位において、形式に応じて、出席状況、レポート、グループ学習発表、小テスト等により形成的評価を実施し学生の学習を促進し、本試験などの総括的評価とともに総合的・多角的に評価が行われているが、更に実効的な評価について検討する必要がある。</li> <li>・臨床実習においては、各臨床科で知識及び技能や態度の評価を確実にしているが、学生個人が自身を評価することが容易なポートフォリオ等の導入も検討する必要がある。</li> </ul>	
<b>今後の計画</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業時コンピテンシーを保証するために、適切な系の在り方や適切な評価法の導入を検討していく。</li> <li>・カリキュラム単位において、学生が教育進度を認識し、学生が自己を判断することを助ける形成的評価および総括的評価の適切な配分を策定するため、カリキュラム委員会および教授会で検討していく。</li> <li>・学生の学習を促進するための方法の見直し、学生が自身を評価することが容易となるポートフォリオ等の導入・整備できるよう概算要求していく。</li> </ul>	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

### 今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3. 2 評価と学修との関連
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
学生に対して評価結果に基づいた時期を得た具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うことが望まれる。	
現在の状況	
学生に対して、評価結果に基づき時機を得て、公正かつ具体的なフィードバックが建設的かつ適切に行われているとかがえるが、学習進度が異なる生個々に、どのようなフィードバックを行うことが適切か、改善を継続的に行っていく必要がある。	
今後の計画	
<p>以下の内容について、カリキュラム委員会、教授会等で検討し本校医学科各教員間に具体性のあるコンセンサスを形成するよう検討していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生に対するフィードバックの適切な時期と方法</li> <li>2. 学生評価のため適切な試験方法と時期</li> <li>3. 学生の知識と理解を深めるた習順序最適化</li> <li>4. ポートフォリオやログブックの導入</li> </ol>	
現在の状況を示す根拠資料	

#### 今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4. 1 入学方針と入学選抜
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
入学方針を定期的に見直すことが望まれる。	
現在の状況	
本校は防衛省・自衛隊の状況や卒業ニーズに応じた入学者の選抜を行っている。入学方針についても、状況に応じて随時見直していく必要がある。	
今後の計画	
防衛省・自衛隊という卒業生の職域としての社会と防衛医科大学校病院周辺の地域社会という2つの異なる社会状況を分析し、両者の要請に応える人材を選抜する入学方針とすべく随時見直しを検討していく。	
現在の状況を示す根拠資料	

#### 今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4. 3 学生のカウンセリングと支援
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
学習支援と学生支援の連携を促進すべきである。	
現在の状況	
学習上の問題に関するカウンセリングとして、成績下位者に対し、理解度に応じて複数グループに分け学習指導を行う取組を実施しているが、学生の利便性やよりきめ細やかな相談・カウンセリングの在り方などを考慮・検討する余地がある。	

<b>今後の計画</b>	
在学生の修学環境、学生舎の快適性・利便性を向上させる方策について具体的かつ継続的に検討していく。また、相談・カウンセリング態勢を更に充実させるとともに、教職員間の意識改革や連携体制についても検討していく。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

#### 改善した項目

<b>4. 学生</b>	<b>4. 4 学生の参加</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
学生を正式なメンバーとして教育プログラムの策定、管理、評価に関わる委員会に参画させるべき。	
<b>改善状況</b>	
防衛医科大学校のカリキュラムを改訂する際において、学生の意見も反映できるシステムを構築するため、カリキュラム委員会に学生を追加するため規則の改正を行った。	
<b>今後の計画</b>	
教育に関わる検討内容について、学生の立場から問題点や要望を表明する機会を与え、学生の意見を教官にフィードバックする取り組みを検討していく。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
医学科のカリキュラム委員会に関する達	

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>4. 学生</b>	<b>4. 4 学生の参加</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
国際交流のシステムを拡充し、より多くの学生が海外研修に参加できるようにすることが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
自衛隊医官候補生として、使命感の向上に資するとともに、国際的視野の拡大及び勉学意欲のこうじょうを図る目的として、第3学年及び第5学年を対象に海外研修要員を選考し海外研修を実施している。さらに、学生が休暇を利用して主体的な海外への学会・病院研修を奨励している。	
<b>今後の計画</b>	
学生生活動や学生組織については、学業に影響がない範囲で奨励することが肝要であり、学生生活動や学生組織を定期的に見直す体制・手続き等について検討していく。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>5. 教員</b>	<b>5. 2 教員の活動と能力開発</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	

<b>改善のための助言</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教官全体がカリキュラムの全体像を把握し、理解して教育を行うべきである。</li> <li>・ 教官の教育能力開発を目的とした研修会を拡充し、参加を促すべきである。</li> </ul>
<b>現在の状況</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カリキュラム委員会を含む教育関連委員会で議論された内容や、カリキュラムの状況と方向性について、教授会を通じて個々の教官に伝達することとなっている。</li> <li>・ 医学教育ワークショップでのグループ討論などにより、個々の教官のカリキュラム理解の充実を図っており、教授会等を通じて参加を促している。</li> </ul>
<b>今後の計画</b>
<p>教官にカリキュラムの改訂や新たな試みなどの最新の内容を周知するためのFDを行うことを検討している。また、アウトカム基盤型カリキュラムの運用と教員の理解度の分析・評価を専門的に行い、教育に特化した情報の収集と発信を行う組織の設置について概算要求を行うことを検討している。</p>
<b>改善状況を示す根拠資料</b>

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>6. 教育資源</b>	<b>6. 1 施設・整備</b>
基本的水準 判定：適合	
<b>改善のための助言</b>	
PBLなどのアクティブラーニングを実施するために、必要な少人数グループ学修が行えるよう学修環境を更に整備すべき。	
<b>現在の状況</b>	
定期的な建物・設備の点検、教育研究用器材等の導入に伴う設備の増改修を実施してきている。	
<b>今後の計画</b>	
当校の主要な建物は経年により老朽化しており、今後10年程で耐用命数を迎えることから、教育や研究環境を考慮した機能別集約や立体化など段階的に建替計画を検討していく。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>6. 教育資源</b>	<b>6. 1 施設・整備</b>
基本的水準 判定：適合	
<b>改善のための示唆</b>	
学生や教官、事務官からの要望をもとに教育環境の向上を図る仕組み作りが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
学生や教官からの要望をもとに、器材及び既存の施設の増改修について概算要求を行い、可能な範囲で教育環境の改善を実施している。	
<b>今後の計画</b>	

教育環境の向上に向けて、教育に特化した情報の収集と発信を行う組織を設置し、教育環境の向上について一元的な体制の構築について概算要求を行うことを検討していく。

現在の状況を示す根拠資料

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6. 2 臨床実習の資源
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療参加型臨床実習を充実させるために、学生が経験すべき疾患分類を定義し、それに基づいて一人一人の学生の受け持ち患者数を把握すべき。</li> <li>・防衛医官が身に着けるべき臨床能力を定義し、その能力を開発するための臨床実習施設を確保すべき。</li> </ul>	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が経験した患者数とその疾患分類を把握するために、学生が経験した疾患を確認し、さらに評価を行えるシステムを構築する必要がある。また、患者数と疾患分類に関して情報収集および臨床実習のバックアップ体制を整備する必要がある。</li> <li>・病院で学生が行う臨床実習において必要症例数を担保するため、スキルス・ラボ（シミュレーション・ラボ、アニマル・ラボ、アナトミー・ラボ）を整備し、学生が技術修得できる機会を十分に与える必要がある。今年度までにアニマル・ラボ及びシミュレーション・ラボを開設し教育環境の充実を図れた。</li> </ul>	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者数と疾患分類を把握し評価を行うための機材の整備について、および患者数と疾患分類に関しての情報収集及び臨床実習のバックアップ体制の整備を行う組織の設置について概算要求を行うことを検討している。</li> <li>・令和元年度には、アナトミー・ラボの開設が予定されており、更なる教育環境の整備を行っていく。また、スキルス・ラボの利用をカリキュラムに反映させるかなどについては、今後検討していく。</li> </ul>	
改善状況を示す根拠資料	

改善した項目

6. 教育資源	6. 3 情報通信技術
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
学生の学修を促進するために、インターネットなど情報通信技術の利便性向上を目指した環境を整備すべきである。	
改善状況	
病棟の改修までの一時的な学修施設として、病棟の一角に学生専用のインターネット端末を整備し、臨床実習の空き時間などにネット講座など学修出来るような学修環境を整備した。	
今後の計画	

教育におけるIT化の更なる推進を図ることを目的として、病棟の改修終了に合わせ、学生の病院内での利便性向上として、端末等を整備できるよう概算要求していく。

**改善状況を示す根拠資料**

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6. 3 情報通信技術
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己学習用のe-learningシステムと端末の更なる拡充が望まれる。</li> <li>・学生の電子カルテの利便性向上に向けたハードウェアのよりいっそうの整備が望まれる。</li> </ul>	
改善状況	
臨床実習のカンファレンス時における患者情報の把握、レポート作成時に活用できるよう病院内に設置した。	
今後の計画	
教育におけるIT化の更なる推進を図ることを目的として、病棟の改修終了に合わせ、学生の病院内での利便性向上として、端末等を整備できるよう概算要求していく。	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6. 5 教育専門家
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
教育の専門家として意欲ある教官を育成し活用すべきである。	
現在の状況	
医学教育指導者フォーラムや日本医学教育学会等に参加する教官数はいまだ限られていることから、教育専門家の教育評価や医学教育分野の研究における最新の知見の必要性に対する認識を確認する必要がある。	
今後の計画	
教官にカリキュラムの改訂や新たな試みなどの最新の内容を周知するためのFDを行うことを検討している。また、アウトカム基盤型カリキュラムの運用と教員の理解度の分析・評価を専門的に行い、教育に特化した情報の収集と発信を行う組織の設置について概算要求を行うことを検討している。	
改善状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6. 6 教育の交流
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外の医育機関との交流をよりいっそう促すことが望まれる。</li> </ul>	
現在の状況	

本校看護学科及び近傍に所在する教育機関との国内交流の実現に向け検討している。医療関係者が連携した合同講義を実施し教官及び学生間の交流を行うことにより、プロフェッショナルリズムの涵養及び医学教育に対する取り組み・視野の拡大が期待できる。今後、実施に向けカリキュラムを柔軟に調整していく。

#### 今後の計画

現行制度の中で実施可能な合同講義について、講義内容、講義時間等を連携先と調整していく必要がある。また、実施した際の教訓事項を踏まえて、継続して行くことを視野に入れている。

#### 現在の状況を示す根拠資料

### 今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7. 1 プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程と学修成果をモニタするIR機能を充実させ、6年間のIR機能を充実させ、6年間のカリキュラム全体の学びやすさや学びにくさを精査するためのカリキュラムに関するアンケート（学生及び教官対象）を定期的実施し、分析すべきである。</li> <li>・カリキュラムに関するアンケートの結果に基づいて、カリキュラムの主な構成要素を評価し、課題の発見と改善につなげるべきである。</li> </ul>	
現在の状況	
<p>カリキュラムの学修成果については定期的にモニタしてきたが、教育課程のモニタについては必ずしも十分でなかったことから、教育分科会にモニタ機能を一元化している。カリキュラムに関するアンケートについては、各科目が終了した時点でWeb上に回答を送信させており、進学課程の教授と各系の責任者にフィードバックし教育内容の向上に努めている。</p>	
今後の計画	
<p>カリキュラムの教育課程と学修成果を定期的にモニタできるプログラムを整備し、学修成果の分析・評価のために教育に特化した専門の組織を設置すべく概算要求を行うことを検討している。</p>	
改善状況を示す根拠資料	

### 今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7. 1 プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<p>特色ある教育活動、卒後の長期にわたる人材育成、社会的・国際活動などについて、使命に沿って評価するための体系を構築することが望まれる。</p>	
現在の状況	
<p>各自衛隊との卒前・卒後の連携強化について、検討する枠組みを整備する必要がある。</p>	
今後の計画	

本校の使命と卒業時のアウトカム達成に適した教育内容にするための分析・評価するシステムを構築するため、教育に特化した専門の組織を設置するため概算要求を行うことを検討している。

現在の状況を示す根拠資料

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7. 2 教員と学生からのフィードバック
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・より体系的に、学生と教員からのフィードバックを収集し分析すべきである。 ・全寮制のメリットを活かして、学生と教員からのフィードバックを収集し、教育関係の委員会活動や生涯学習のシステムに反映させる仕組みを構築すべきである。	
現在の状況	
学生を対象とする授業アンケートによる結果を教員にフィードバック出来る体制は築いたところであるが、教員からのフィードバックは不十分であることから、教員によるカリキュラムアンケートを実施し今後のカリキュラム改編に役立てられる体制を構築できるよう検討している。	
今後の計画	
講義や実習に関するフィードバックが系統的に収集する持続可能な体制を構築してい	
改善状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7. 2 教員と学生からのフィードバック
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
フィードバックの結果をカリキュラムの改善に活用することが望まれる。	
現在の状況	
新しいカリキュラム実施をめざして、カリキュラム委員会の下部組織としてカリキュラム検討ワーキンググループを設置し、アンケートの結果の反映や意見聴取などを実施するよう検討している。	
今後の計画	
カリキュラムの改訂においては、アンケート結果などがどのように活用されたのかをカリキュラム委員会に報告する体制を構築していく。臨床実習中の学生による医療過誤、不適切対応に関してもインシデントレポートシステムを活用する体制を構築し、その結果を臨床実習プログラムの改編に反映させていく。	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7. 3 学生と卒業生の実績
------------	----------------

<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>
<b>改善のための助言</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業の情報が把握しやすい特性を活かして、より長期的な卒業生の情報把握を行うべきである。</li> <li>・学生と卒業生の実績の分析結果から、現在の使命、学修成果、カリキュラム教育資源の問題点を自己評価し、改善につなげるシステムを構築すべきである。</li> </ul>
<b>現在の状況</b>
各自衛隊との卒前・卒後の連携強化について、検討する枠組みを整備する必要がある。
<b>今後の計画</b>
本校の使命と卒業時のアウトカム達成に適した教育内容にするための分析・評価するシステムを構築するため、教育に特化した専門の組織を設置するため概算要求を行うことを検討している。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>

今後改善が見込まれる項目

<b>7. プログラム評価</b>	<b>7. 3 学生と卒業生の実績</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
使命に沿った人材を集めるために、学生の背景、入学前の学業成績などを分析し、学生の選抜方法、カリキュラムの改善に役立て、卒業するまでの支援体制を確立することが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
入学時の成績、志望動機、在校中の成績、医師国家試験の成績との相関関係を分析し、学生選抜やカリキュラムの改善にフィードバックする必要がある。	
<b>今後の計画</b>	
本校の使命と卒業時のアウトカム達成に適した教育内容にするための分析・評価するシステムを構築するため、教育に特化した専門の組織を設置するため概算要求を行うことを検討している。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

今後改善が見込まれる項目

<b>7. プログラム評価</b>	<b>7. 4 教育の関係者の関与</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育改善のPDCAサイクルを回す体制を整備すべきである。</li> <li>・自衛隊衛生部門との交流をより促進し、プログラムのモニタと評価に活用すべきである。</li> </ul>	
<b>現在の状況</b>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・PDCAサイクルを回す体制として、メンバーや機能の重複が見受けられることから、規則等の改正を含めた検討が必要である。</li> <li>・防衛省本省、各自衛隊衛生部門からのカリキュラムに対するフィードバックを得るために卒前・卒後の連携強化について、検討する枠組みを整備する必要がある。</li> </ul>
<b>今後の計画</b>
PDCAサイクルを回す体制を整備するため、本校の使命と卒業時のアウトカム達成に適した教育内容にするための分析・評価するシステムを構築するため、教育に特化した専門の組織を設置するため概算要求を行うことを検討している。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>7. プログラム評価</b>	<b>7. 4 教育の関係者の関与</b>
基本的水準 判定：部分的適合	
<b>改善のための示唆</b>	
防衛省関係者だけでなく、自治体関係者、自衛隊病院関係者、患者、模擬患者等の協力者などから幅広く教育プログラムに関する意見聴取を行うことが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
教育プログラムに関する評価について、防衛省関係者以外の方との意見聴取について枠組み等を含めて検討する必要がある。	
<b>今後の計画</b>	
地域医療連携検討会等を活用し、地域医療の代表者等と本校の教育プログラムについて意見聴取していくことを検討していく。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>8. 統轄及び管理運営</b>	<b>8. 4 事務と運営</b>
基本的水準 判定：部分的適合	
<b>改善のための示唆</b>	
教育プログラムの管理運営に関わる評価を定期的に行う組織や制度を構築することが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
定期的な自己点検及び改善に係る情報を収集し、その処理さらに分析等を実施する必要がある。	
<b>今後の計画</b>	
本校の使命と卒業時のアウトカム達成に適した教育内容にするための分析・評価するシステムを構築するため、教育に特化した専門の組織を設置するため概算要求を行うことを検討している。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>9. 継続的改良</b>	
-----------------	--

<b>基本的水準 判定：適合</b>
<b>改善のための助言</b>
継続的改良のために資源を配分し、教育プログラムを自己点検し改善するPDCAサイクルを回すべきである。
<b>現在の状況</b>
学修成果／コンピテンシー評価に関しては、定期的な自己点検及び改善に係る情報の収集が十分になされているとは言えないことから、その処理さらに分析等を実施する必要がある。
<b>今後の計画</b>
自己点検と改善に係る情報の収集等を行い、データの分析・処理方法について見直しを行うため、教育に特化した専門の組織を設置するため、概算要求及び規則等の改正を行うことを検討している。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>